

目的 家政学の本質究明を試みるに当り、家政学に哲学を求め、その体系、構造を明かにすることをねらいとする。

方法 O F ボルノーの「人間とその家」及び、「哲学的視野における時間にたいする正当な関係」等の論考を中心に、その空間性より時間性の展望をすゝめ、空間性と時間性の関係において家政学の構造を試論し、現在における華々しき家政学の多様さをこの全構造に納めようとするものである。

結果 第1報、第2報と本報との系統的推論により、「家族及個人生活に守護性を附加し、その増大をはかる行為、並びに技術を総合した学問を家政学という」と定義づけを確立させ、さらに、家政学を空間性よりみて、家族家政学、社会家政学の分類をはかり、時間性より生活科学の独立をはかり、その構造体において関係づけを試みた。また内部空間の守護性をさらに外部空間に附加し、危機の増大しつゝある今日的世界における家政学の重要性を確認する試論ともなした。次回は時間性における生活科学分野を守護性的視点より内容構造の検索を試みる。